

〔A類社会コース，A類現代教育実践コース環境教育プログラム，B類社会コース 対象〕

歴史総合・日本史探究 解答例

令和7年度

一般選抜前期

I

問1

14か条の理念に即して、国際連盟が発足し、各国が集団的に国際平和を維持する枠組みはできた。また、中東欧諸国が、ロシアで起こった革命運動を防ぐ目的もあって、「民族自決」の理念に立ち建国された。しかし、国際連盟はアメリカが参加せず、その力は経済制裁などに限定され、国際紛争を十分に解決できなかった。敗戦国ドイツは、多額の賠償金を課せられるなど、敗戦国は領土の割譲や賠償を義務付けられた。敗戦国ドイツやオスマン帝国領は分割され、国際連盟下でイギリスやフランスの委任統治領となり、実質的な植民地支配は続いた。

問2

日本は、イギリスからの参戦依頼を好機とし、実際にはイギリスは参戦依頼を取り消したものの中国における権益確保をねらって参戦した。日本は袁世凱政府に対して二十一か条要求を強要し、大部分を認めさせた。戦後、中国はこの要求の取り消しをパリ講和会議に訴えたが拒否され、国内では五・四運動という抗議運動がおこった。英米は日本の拡大を懸念したが、1917年の石井-ランシング協定など協力関係は強化されたが、戦後、日本の影響力拡大を恐れる列強との利害調整がワシントン会議で行われ、二十一か条要求の旧ドイツ権益も返還された。

〔A類社会コース，A類現代教育実践コース環境教育プログラム，B類社会コース 対象〕

歴史総合・日本史探究 解答例

令和7年度

一般選抜前期

Ⅱ

問1 東京都

問2 （解答例）794年の平安京遷都より10年前の784年に、大和国の平城京から山背国の長岡京に遷都があった。これは平城京における仏教等の旧権力からの決別を目指したものであり、大きな画期であったと考えられるため、H案は山城時代と名付けたのだろう。なお、平安京遷都により山背国は山城国と改名された。

問3

奈良－ い－d－□

平安－ う－f－ハ

鎌倉－ あ－a－ホ

問4 （解答例）1221年の承久の乱は、後鳥羽上皇が率いる朝廷の軍と執権北条義時が派遣した鎌倉幕府軍が激突し、幕府方が勝利し三上皇は流罪に処された。この後、鎌倉幕府の西国支配が決定的となった。ここまで続いた天皇の時代から、武士の時代に転換するという意味で、日本の歴史を二分する最大の画期とHさんは考えたと思われる。

問5 かえお

問6 （1） （解答例）尾張の守護大名であった織田信長が軍勢を率い、足利義昭を奉じて京都に入り、義昭を15代将軍に擁立して室町幕府を再興させたこと。

（2） ②

問7 どれを選んでも、これまでの歴史学習の知識をいかした時代区分への挑戦や、時代区分論への意見がまとめられていればよい。

（解答例）③古墳時代には女性首長が確認され、その後の女帝の時代や摂関時代における国母の権力、続く女院の存在などを考えると、中世までは女性で時代区分することもできるのではないか。ただし近世になると、男尊女卑の価値観が広まり、女性が政治面で活躍することができなくなり、今もその傾向は続いている。近世以降、女性で時代区分を考えられないこと自体が歴史的問題であろう。

[A類社会コース, A類現代教育実践コース環境教育プログラム, B類社会コース 対象]

歴史総合・日本史探究 解答例

令和7年度

一般選抜前期

Ⅲ

問1

- (a) 毎年のように役負担が課されていて、大名家の財政を圧迫していたと思うな。
- (b) 17世紀後半の開発と石高の増加が著しいね。

問2

藩は幕府に対して、領地を給付される代わりにその石高に応じた軍役を負担することが求められたが、各種の手伝普請は平時の軍役の代わりとして課せられた。

問3 零細化や没落

問4 う

問5

(1) 寛永飢饉

(2) 寛永19年の全国的な飢饉を受けて、幕府や藩は農政への抜本的改革へと着手し始めた。一方的に過剰な搾取を続けるのではなく、農民の農業経営が維持され、継続的かつ安定的な年貢収納が実現するように農民の生産や生活にきめ細かく関与していく政策を展開していく。また領主として農民を慈しむ政治(仁政)を行うことが責務とされるような意識が成立していった。

問6

各地で展開した新田開発によって耕地面積が増え、農作物の収納も増加し、合わせて人口増加が進んだ。農民たちは小経営の家を営み、農具の改良や収納高の増加を目指して研鑽していった。その際、農書などの農業技術書も生み出され、地域に適した商品作物の栽培などにも力が入れられるようになった。また人々の生活に必要な不可欠な紙や衣類などを作る手工業、木材を得る林業、貴重なタンパク源を得るための漁業、国内貨幣の原料や対外貿易の輸出品目としても重要な金銀銅を得る鉱山業などの諸産業が発達した。

問7 居住や職業を変えて自由に生活することは難しくなったり、家や村を中心とする共同体の規制を強く受けるようになったりする

〔A類社会コース，A類現代教育実践コース環境教育プログラム，B類社会コース 対象〕

歴史総合・日本史探究 解答例

令和7年度

一般選抜前期

IV

問1 遠景か近景か、全身が見えるか否か、手の組み方や姿勢などを比較して、印象のちがいなどが具体的に観察できていること。ただしルッキズムに傾斜しないように注意したい。

問2 資料Cからは、化粧をする様子や古風な出で立ちなど、御簾のむこうの前近代的な天皇に奇異な印象を抱くヨーロッパ人の視線が看取され、アジア蔑視を感じ取ることもできる。「近代化」や「文明開化」のなかで、明治天皇には、そうした前近代的なイメージを払拭し、資料Bのような、ヨーロッパで通用する君主像や男性像が求められた。

問3 天皇が神であることや、日本民族が他の民族よりも優越しているといった観念

問4 敗戦後の国民の虚脱状態や天皇制への反発から、それが国体の変革や天皇制の解体、社会主義革命へとつながること。

問5 民主的・文化的・平和的・・・など戦後日本で強調された文言があればよい

問6 天皇制の廃止や天皇の処刑などを含め、敗戦国の国家元首として戦争責任が問われている状況。

問7 傲慢で尊大な帝王のイメージとは異なり、占領下にあって、民主化に適合的なやさしさや弱さをもつ、人間的でむしろ女性的な存在

問8 解答例

近代ヨーロッパで通用する君主が強い君主であり、記事にあるように傲慢で尊大でわがままな要素があるとすれば、明治天皇はそうした君主を前提にしてアピールされた。その後、戦時期には神格化が進んだが、敗戦国として再出発した日本は、平和的で文化的で民主的である必要があり、昭和天皇もそれにあわせてやさしさや弱さ、女性性などが強調された。